

◎ 今月のトピック

◆ 林業教室（基礎講座）を開催しました

8月31日と9月17日に、平成11年林業教室基礎講座の現地研修を南郷村と下郷町で開催しました。

南郷村では「森林計画制度と森林病虫害」と「林業機械と安全な作業」について、また、下郷町では「間伐の仕方」と「林業経営と税制」についての講義を行い、それぞれの林業普及協力員の指導により、実習を行ないました。



チェーンソーの取り扱いと伐採実習（南郷村）



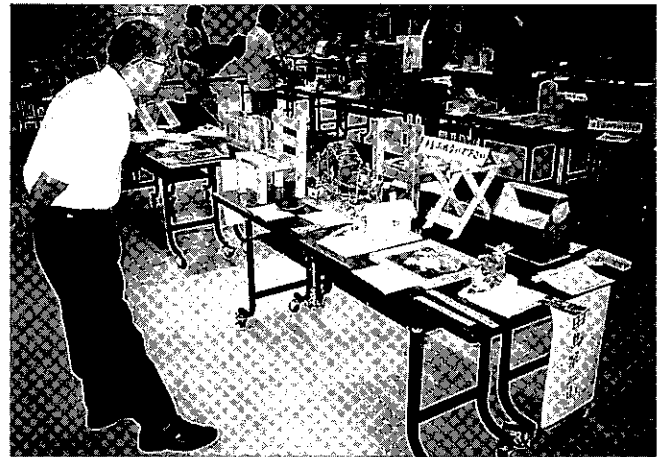
枝打ちと間伐実習（下郷町）

◆ 「木工工作コンクール」開催される

県木材青壮年協会田島支部（加藤雅之支部長）主催の「チビッコ木工工作コンクール」の審査会が9月22日に行われ、南会津農林事務所長賞には田島小3年生葵さんの「じかんわり」が選ばれました。コンクールは子供達に木の良さを知って

もらう目的で毎年開かれており、小学生が夏休みに仕上げた力作161点が出品されました。作品は翌23、24日の両日、田島町の会津田島ふれあいステーションプラザにおいて展示されました。

なお、所長賞をはじめとする入賞作17点は県コンクールに出展され、11月26日（金）～28日（日）に行われる「木材フェア」（郡山市ビックパレット）で展示されます。



作品の展示風景

◆ 南会津グリーン・ツーリズムモニターツアー「館岩コース」「田島コース」が実施されました

9月7日～9日にかけてモニターツアーを「自然健康村」会津高原たていわグリーン・ツーリズム推進協議会が中心となり館岩村で実施されました。首都圏から17人が参加し、そば打ち、いも掘り、トウモロコシ収穫、イワナ釣り、リースづくり、花摘み、キノコ収穫などを体験しました。

2日目には、自分で収穫したトウモロコシとイワナの塩焼きで昼食をとりましたが、そのおいしさに感動していました。

また、同じく10月1日～3日にはモニターツアー田島コースが田島町グリーン・ツーリズム推進協議会が中心となり実施されました。

主に首都圏から33名の参加者があり、参加者は開所式で体験内容や留意事項などの説明を受けた後、普段は入らないような山の中で、きのこ狩りなど今までにない体験をして楽しんでいまし

た。

2日目には、乗馬や清流釣りなど6つのメニューから選択し、班別に体験を行いました。

3日間とも天候に恵まれ、駒止湿原散策や稲刈りなどの体験メニューを楽しんでいました。

両コースとも、参加者は南会津の豊かな自然や人情に触れ、普段経験しないような体験をするなど、館岩村と田島町の秋を満喫していました。

なお、今月の22日～24日には、モニターツアー伊南コースが行われます。



自作のリースを手に記念撮影（館岩コース）



きのこと狩り体験で楽しみました（田島コース）



◆リンドウ「ふくしまかれん」現地検討会が開催されました

9月27日、県育成品種「ふくしまかれん」の現地検討会が下郷町の検定ほ場で開催されました。「ふくしまかれん」はピンクのF1品種で、現在、県内3カ所で地域検定試験を実施しています。今年は例年になく高温の影響を受けて開花が

遅れ気味でしたが、F1品種らしく生育は旺盛で、草丈、基本数等についても揃いの良い経過となっています。

今回、検討会では「ふくしまかれん」の品種特性、生産振興、種苗供給体制、今年の生育状況説明のあと、参加者との質疑応答が活発に行われました。

本県の基幹産地である南会津地域では、約50haのリンドウが栽培されていますが、現在、約1ha分の苗の注文があり、品種のバリエーションを増やし、産地の一層の充実、強化が図られることが期待されています。



「ふくしまかれん」の現地検討会

◆「第2回うつくしま農林水産まつり」で南会津の農林業とグリーン・ツーリズムを紹介

10月22日～24日まで開催される「第2回うつくしま農林水産まつり」で、当事務所からは「南会津地方の農林業とグリーン・ツーリズム」と題して出展いたします。

7月から各種団体の協力を得て準備を進めてきた出展内容は、来場者に南会津の農林業について理解を深めてもらうため、農林業に関するパネル展示とクイズを行い、回答者には毎日約120名の方に、抽選で南郷トマト、リンドウ、米などを、さらに、クイズ正解者の中から抽選で「南会津の酒」4銘柄セットを、3名の方にプレゼントすることになっています。

また、南会津の食として、「猿楽そば」「会津地鶏のやきとり」「そばやきもち」「しんごろう」を販売します。



★ この人を知りたい

「他にないものを求めて・・・」

伊南村白沢 大宅 宗吉さん

「花の育種は採算を考えると出来ない。売れる花を作るのが目的ではなく、美しい花を作りたいというのが本当の気持ち」と話してくれたのはリンドウの品種“ドリーム”を開発し、伊南村白沢地区でリンドウの切り花を中心に農業経営をされている大宅宗吉さんです。

大宅さんは、自分の代になって農業をはじめ、昭和47年からリンドウを手始めに栽培を開始しました。全国でも数少ないリンドウの育種家でもある花の専門家大宅さんですが、当初はリンドウ栽培の先輩宅に夜遅くに出かけて勉強してくることもたびたびあったほどだそうです。

その後は、花のカタログに載っている花はほとんど手掛けるぐらい数々の花を栽培したそうですが、「いままでいろいろな花を栽培したことが、花の育種をするのに役立った。改めてリンドウの良さを再認識した」とのことで、育種技術に重要な花の見分け方や先見性がそれまでの経験の中で培われたのだらうと思われます。

また、集落のリーダーでもある大宅さんは、平成10年までの6年間区長を努め、地域の取りまとめ役として活躍していました。高齢化が進むなかで、地域の農業生産の基盤を維持していくために土地改良事業の必要性を痛感し、ほ場整備事業（担い手育成型）白沢地区土地改良事業組合長として、とりまとめ推進に苦勞をしてきました。自ら直播栽培も積極的にとり組んでおり、「直播は、労力の軽減が大きなメリット。労働時間が短縮す

ることで、花きなどに力が入られる」と話し、直播栽培のメリットを花き経営に活かしていく考えを話してくれました。

担い手が少なくなり、減反を強いられている現状で、将来、農地をどのように活用していくかについては「他と同じことをしてもダメ。大規模な農地に花を栽培し、見せるだけではなく摘み取り体験をさせるのもおもしろい」という地域活性化に結びつく考えももっておられました。

このようなアイデアは、地域独自のものを作りたいという大宅さんの信念に基づくものですが「一般的なリンドウの色や形のイメージを変えるようなものを作りたい」という夢にも通じるものです。大宅さんの一言一言から夢を現実のものにする日もそう遠くはないと思わせる熱意が感じられました。



大宅さん夫妻（自宅前の花壇で）

★ 地域紹介コーナー

・・・ 下郷町 ・・・

「そば栽培で遊休農地の活用と地域活性化」

農林課長 弓田庄平

第4回を迎えたそばフラワーフェスティバルが8月29日開催されました。那須山系を背に40haの団地一面に白い花が咲き乱れる情景に魅了され、当日は約600名が訪れました。

そばの栽培は、米作りの出来ない山間高冷地や、痩せた土地で栽培が出来ることから凶作に備えるための作物として古くから栽培されています。

現在のように麺状のそば切りとして食べられるようになったのは江戸時代になってからと言われています。

下郷町においても、農家が馬鈴薯の収穫後に二毛作をして秋そば（在来種）を栽培し、食生活の中に深く馴染んできています。

昭和40年代には、南会津東部開拓国営パイロット事業によって520haの造成された農地にリンゴ、醸造用ぶどう、野菜（大根、種馬鈴薯）等を作付けしました。しかし、連作障害などの影響により栽培農家が減少すると共に農地は荒廃し、遊休農地は増大してきました。

平成に入り地元農家が遊休農地にそば約1ha

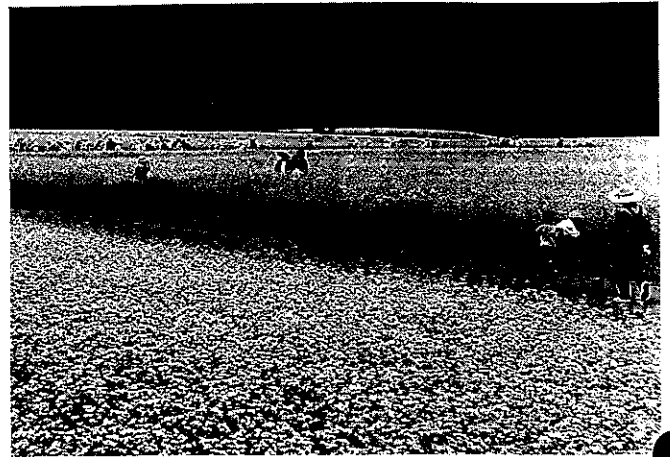
を栽培したところ良質なそばが生産されました。

さらに省力型作物として規模拡大を図ると共に生産者が相次いで組合を設立し、同時に補助事業により各種施設・設備を整備し生産から製麺まで一貫した経営を行うようになりました。現在では下郷町そば振興協議会が組織され、栽培面積は団地化、米の生産調整、二毛作等を合わせると約160haとなり、今後の遊休農地対策としてそば栽培に大きな期待が寄せられています。

そば栽培の高まりの中で団地化した広大なそば畑のPRと地域活性化に取り組むため、町とそば振興協議会が主体となって平成8年度からそばフラワーフェスティバルと名付けてイベントを開催しています。主な内容は商品付きの麦わら帽子飛ばし、ジャガイモ掘り体験の後、会場を養鱒公園いこいの広場に移し、そば食べ放題（鱒付き）、お楽しみ抽選会のほかフリーマーケットを開催しています。募集人数300名のところ、町内は勿論会津や県内外から約600名が訪れ地域の活性化

に定着し、役割を果たしています。

また、そば写真コンクールを同時に開催し毎年優秀な作品を文化祭に表彰しています。特に、平成11年2月には第7回美しい日本のむら景観コンテストの生産部門において農林水産大臣賞の荣誉に浴しています。



フェスティバルが行われた猿楽台地

特集！ 南会津のほ場整備について

現在南会津の農村地域においては、県内の他の地域に比べても急速に過疎化、高齢化が進行しており、農業・農村の自立と食料自給力の維持強化のため、安定的な担い手の育成確保が急務となっていますが、当事務所では担い手を育成するための必須条件である農地の大型化、集団化並びに経営規模の拡大を図るためのほ場整備事業を積極的に実施しています。

ほ場整備事業を実施することで、様々な効果がありますが、主に次のような効果を挙げることが出来ます。

- (1) 省力化による農業生産の低コスト化が図られる。
- (2) 暗渠排水、客土等により耕地の汎用化が図られる。
- (3) 換地により耕地が集団化され効率的な機械作業が可能になる。
- (4) 農地の流動化が促進され経営規模の拡大につながる。
- (5) 農道の整備による通勤通学路の確保、排水路の整備による降雨時における湛水被害の軽減など農村生活環境の改善に役立つ。

また、ほ場整備事業では一定規模の非農用地を創設することができますが、適切な創設、配置によりその地域の営農構想のみならず将来の生活構想まで具体化させることができます。

このように大きな効果が期待できるほ場整備の南会津管内での実施状況はどうかといいますと、平成9年度までの30a以上の整備率は田で76.5%、畑で59.4%となっています。また、新制度の担い手育成型ほ場整備事業の実施状況は表1のとおりとなっています。

表でわかるとおり近年になって主に南会津西部の町村で事業実施地区が多くなっています。このことは、地元受益者の方が事業の必要性をよく理解され強い意欲を持って事業の推進に当たられたことが大きな原因ですが、一方で当該町村当局の財政的な支援も事業推進の上で欠くことのできない要因です。因みに現在実施中の地区について見ますと、各村ともに事業費の15%を負担し、国県合わせた全体の補助率は95%となり、県内でも最高水準にあり、事業を推進する上での大きなメリットとなっています。

以上のように南会津地方の今後の農業・農村の振興を図る上で、ほ場整備は必要不可欠の施策であるとの認識に立ち、事務所の担当スタッフ一同一丸となって事業の推進に邁進していますので、今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

なお、連絡先は、農村整備部事業課農地整備係（TEL 0241-62-5276）ですので、ご意見等ございましたらお問い合わせ下さい。

表一 1 ほ場整備事業実施状況 (県営)

単位 : ha

| 事業の種類 | 地区名 | 町村名 | 計画整備面積 | 実施年度 | H10まで実施面積 | 備考 |
|--------|------|-----|--------|--------|-----------|----|
| 一般 | 只見 | 只見町 | 393 | S58~H7 | 393 | |
| 担い手育成型 | 古町 | 伊南村 | 54 | H2~ | 54 | |
| | 上郷 | 館岩村 | 29 | H6~ | 29 | |
| | 白沢 | 伊南村 | 25 | H9~ | 21 | |
| | 大新田 | 南郷村 | 23 | H9~ | 20 | |
| | 片貝富山 | 〃 | 27 | H9~ | 25 | |
| | 西側 | 伊南村 | 66 | H10~ | 19 | |
| | 和泉田 | 南郷村 | 84 | H10~ | 11 | |
| | 塩ノ原 | 館岩村 | 39 | H11~ | 0 | |
| 計 | | | 740 | | 572 | |



ほ場整備された片貝富山地区



~研修会・講習会のお知らせ~

農業短期大学校・会津農業センター研修

| 内 容 | 日 時 | 場 所 |
|--|-----------------|----------|
| ①花きコース 「会津のキク産地を再考する」 | 10/19 | 会津農業センター |
| ②果樹コース 「果樹を災害から守る」 | 10/20 | 会津農業センター |
| ③漬物加工研修「低塩化をめざした漬物加工」他 | 10/29 | 農業短期大学校内 |
| ④パソコン入門「ウィンドウズの基本操作、日本語入力と文書作成、表計算ソフトの使用法」 | 11/2 11/9 11/15 | 農業短期大学校内 |
| ⑤そば加工研修「日本の食文化とそば」他 | 11/12 | 農業短期大学校内 |

※お申込み・お問合せ先：南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

3ヶ月予報

仙台管区气象台発表の「東北地方3ヶ月予報」

- 10月 天気は周期的に変化するでしょう。平均気温は高い見込みです。
- 11月 天気は周期的に変化するでしょう。平年と同様に東北日本海側ではくもりや雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多い見込みです。
- 12月 平年と同様に、東北日本海側ではくもりや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

リーダーシップ

指導者としての資質、能力、力量、統率力を兼ね備えた人がリーダーと「広辞苑」にあるが、しかし職場や地域でリーダー不足、不在とか「どうも彼はリーダーシップに欠ける、優柔不断でリーダーとしてはどうも」とかの話を多く聞く。

一般会社や公務員の採用試験では、面接重視、研修重視になって久しいが、それでもリーダーが育たないとトップが嘆くとも。

そこで30年来の団体登山の経験から、リーダーを養成したり、リーダーシップを発揮出来る人を見つけるには「登山」が一番と言いたい。

所属する「県庁自然植物研究会」では年2回、30人～50人程度で県内外の山に登る。その際、団長、行動隊長の下に10人位の班でそれぞれ班長、副班長を設けて行動する。団体のため、上りも下りもプラス30分～1時間である。その間（ほとんど1泊2日）の夜を含めての行動で、リーダーとしての力量、統率力等が問われるし、資質もよく分かる。

また、リーダーシップを発揮できる人は、地域でも職場でもそうである。ただ、常に数名は、かたくな行動や言葉で団体を乱す。彼らは逆に失格である。

〇〇大学山岳部山草学科出のT君、花も鳥も木にも詳しく、常に最後尾で高齢者や、体調不良の者まで拾って(?)来るため脱落者もない・・・かくなりた。

リーダー不足を嘆く前に、立派な建物で机上での研修でなく、登山での研修、養成、登山でリーダーを発掘してはと思うのだが。

所長 横田

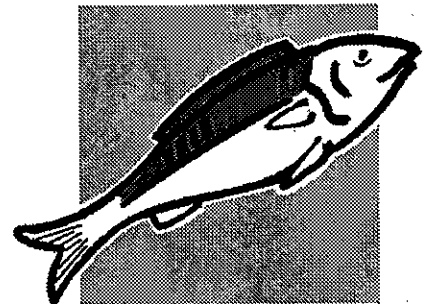
生活の知恵

魚の皮を破らずに焼くには？

サンマがおいしい季節になりました。

旬の魚はシンプルに焼き魚でいただくのが一番ですが、焼き上がったら皮が網にくっついて見るも無残ということはありませんか？

こんな時は、網を空焼きして、網に酢を塗っておくと、魚の皮と網の間に膜ができて皮がくっつかなくなります。ぜひ、一度お試しください。



お問い合わせ

あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所企画部 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5349

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

郵便・FAXどちらでも結構です。

◎ この広報誌は再生紙を使用しております